



アリの巣はどうしてくずれないの

土は、水気を保ち、固まりやすい

土は、ふつう、湿り気があって、固まっています。雨が長い間降らず、土の表面がからからかわいていても、ちょっと下の方までほってみると、湿っています。土は、水気を保っておく、はたらきがあるのです。木や草の根があると、これらの根が、さらに土の水を保つはたらきを、よくします。

畑のように、土をほり返したばかりの所は、あなをほっても、たぶんくずれやすいでしょう。でも、何回も雨が降って、雨水が土に吸いこまれるたびに、土はしまっ、固まっ、いきます。

砂は、雨が降っても、土とちがって、水気を保っておくことができず、すぐくずれます。

くずれやすい所には、巣を作らない

アリは、砂地には巣を作しません。土が固まっていない、たがやしたばかりの畑にも、巣を作ることはないはずで。

アリが巣を作るときは、土がしまった所を選びます。そして、あなをほるときは、土のかたまりを、一つずつ、がちりしたあごでくわえて、あなの外へ運び出します。土がしまっていますから、運び出された土のかたまりの部分だけあながあき、ほかの部分は、そのままです。また、たくさんのアリが、何度も同じあなの部分を行ったり来たりするため、アリの体や足で、土が固められます。ですから、巣はくずれてこないのです。

(監修・中山 周平)

